

## アメリカ地理学会 Association of American Geographers (AAG) に参加し研究成果を発表しました (2016/3/29-31)

テーマ：アメリカ地理学会

場所：米国カリフォルニア州サンフランシスコ市

2016年3月29日-4月2日、アメリカ・カリフォルニア州サンフランシスコ市でアメリカ地理学会 2016 年次大会が開催されました。災害科学国際研究所からは、情報管理・社会連携部門の佐藤 健教授、桜井愛子准教授、人間・社会対応研究部門の井内加奈子准教授が参加し、日頃の研究成果を発表しました。

3月29日には Hazards and Disasters of the Pacific Ring of Fire のセッションにて桜井愛子准教授が、佐藤健教授・村山良之教授（山形大学教職大学院）との共同研究の成果を ” Application of town-watching and map-making approach to disaster recovery education program at schools in the affected city by the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami”（和訳：2011 年東日本大震災津波被災地の学校における災害復興教育へのまち歩きとマップづくり手法の適用）と題して発表しました。また3月31日には Hazards Risks and Disasters 7: Disaster Analysis のセッションにて井内加奈子准教授が、マリ・エリザベス助教（人間・社会対応研究部門）と連名で、台風ハイエンの被災地フィリピン国での研究成果を ” Relocation dynamics of informal settlers after the 2013 typhoon Yolanda- a two year report”（和訳：台風ヨランダ（2013 年）後の不法居住者の移転ダイナミックス - 2年目の報告）と題して発表しました。

アメリカ地理学会年次大会は、地理学者や関連分野の研究者、政府、民間セクター、非営利団体等の専門家が参加し、毎年アメリカの主要都市で開催されています。本年次大会には、総勢9,000名が参加し、このうち、約35%が海外から参加しています。



発表を行う桜井准教授



会場の様子